

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	白石町立有明南小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着や読解力の向上、授業改善など、教職員の授業力の向上を図る必要がある。</li> <li>特別支援教育の視点を持ち、一人ひとりに応じた教育活動を推進する必要がある。</li> <li>体験活動や道徳教育の充実を図り、児童の心を育て、自己肯定感の高まりにつなげる必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	豊かな心を持ち よく考え 進んで実践する子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着や読解力の向上、授業改善など、教職員の授業力の向上を図る。</li> <li>特別支援教育の視点を持ち、一人ひとりに応じた教育活動を推進する。</li> <li>豊かな心を育む体験活動や道徳教育の実践を図る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が80%以上を目指す。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は82%。日々の授業でも取組の促進を図ることができた。
	○基礎基本の定着	○CRTの知識・技能において、全学年、全国平均を上回る。	・授業やスキルタイムなどで、基本的な知識・技能を習熟するための場を設定する。 ・自分の考えを書いたり、振り返ったりする活動を授業の中に取り入れる。	B	・単元末評価テストでの「知識・技能」の達成率は全校で国語86%・算数85.5%。前期より伸びが見られた。CRTにおいては、全国平均を上回ったのは3学年だった。算数タイムは毎週実施できた。 ・12月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した児童生徒が83%と67%。授業の終末で振り返りを充実させることが今後も必
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自他の生命を尊重している」と答える児童90%以上を目指す。	・人権・同和教育や平和教育、命の教育を計画的に実践する。	A	・人権・同和教育や平和教育、命の教育を計画に基づいて実践することができた。児童の感想等から、人権を守る心や命を大切にしたいという心が育まれている様子がうかがえた。またアンケートで「自他の生命を尊重している」と答えた児童は96.9%であった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生活アンケート等で「いやなことをされたり言われたりしない」と回答する児童を90%以上に、「友達と仲良く活動することができる」と回答する児童を90%以上にする。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行い、迅速に対応できるようにする。 ・いじめに関するアンケートや生活アンケートを学期に1回程度行い、実態を把握する。 ・年2回のQ-Uアンケートや教育相談週間を生かす他、日頃の観察や「〇月の心」のアンケート等により、実態把握に努め、指導に生かす。 ・相談しやすい環境を整える。	B	・いじめアンケートや生活アンケートを実施し、いじめの早期発見ができるように努めた。また、Q-Uアンケートを生かしたり、日頃の観察等をして、児童の実態把握に努め、指導に生かした。 ・生活アンケートでは「いやなことをされたり言われたりしない」と回答した児童は91%、「友達と仲良く活動することができる」と回答した児童は98.9%であったが、実際の生活場面では、友達とのトラブルや暴言などが見受けられ、行動に現れている状況とは言えない。 ・Q-Uアンケートでは、学級生活満足度が全校平均で55%であり全国平均より12%上回った。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童90%以上を目指す。	・キャリアパスポートの活用方法を提示し、活用させる。 ・「将来の夢」を年度末に記入し、自分の夢の実現のため、今できることはなにかを考えさせる時間を設ける。	A	・キャリアパスポートを活用し、目標やふり返りを考えさせることができた。また「将来の夢」を年度末に記入させ、自分の夢の実現のために、今できることについて考える時間をとった。 ・5年生を対象に志についての授業を実施することができた。 ・児童アンケートでは、自らの夢や目標の実現に向けてがんばっていると答えた児童が91.7%だった。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動やスポーツを1日に30分以上行う児童の割合を、80%以上にする。	・業間や昼休みの外遊びの奨励と働きかけの工夫を委員会活動や学級活動を通して行い、外遊びをよくする児童とそうでない児童の二極化を防ぐ。	A	・児童アンケートでは、「授業以外で運動やスポーツを一日に30分以上行う」児童の割合が84%で目標以上だった。また、保護者アンケートでも「体力向上に取り組んでいる」の項目で100%が肯定的な回答であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外勤務時間について、月45時間と年360時間の上限を遵守できるよう校務を遂行する。	・定時退勤日・学校閉庁日の設定 ・会議や行事を精選・統合し、業務の効率化をに努める。	B	・毎週金曜日の定時退勤日は、ほとんどの職員が普段より早く退勤することができた。第3水曜日には研修や会議を入れず、業務の効率化を図ることができた。職員アンケート「学校は業務の効率化を推進している」について91%は肯定的に回答している。 ・1月までの時間外勤務の月平均時間は、28時間37分である。月45時間を超えているのは3名で年360時間を超えているのは4名である。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を持ち、一人ひとりに応じた教育活動の推進	○児童の実態を把握し、必要と認められたすべての児童に対して「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の策定、実施、評価を行う。 ○特別支援に関する専門性が向上したと回答する教員の割合を80%以上にする。	・支援を必要とする児童について、毎週の職員連絡会で共通理解を図る。 ・特別支援教育について、外部講師を招いた研修会を実施する。	A	・児童の実態を把握し、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成、実施、評価することができた。 ・外部講師を招いての研修会では特別支援に関する理解が深まり、特別支援に関する専門性が向上したと回答した職員は、100%であった。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標や重点目標の実現に向けて、保護者や地域の方の理解と協力を得ながら、全職員で共通理解をし取り組むことができた。全体的に良好な結果であるが、課題も見られた。</li> <li>「教職員の授業力向上」については、今後も基礎基本を定着させるための指導法について考え、日常的な取組を推進していきたい。</li> <li>「特別支援教育の推進」については、専門機関や医療機関と連携したり、外部講師等に学ぶ機会を設定したりしながら、支援体制の工夫や改善に努めたい。</li> <li>「豊かな心を育むための実践」については、実生活に生きる体験活動や道徳の授業となるよう取り組んでいきたい。</li> <li>児童が、もっている力を存分に発揮させることができるように、まずは学習の土台となる基本的な生活習慣の確立に努めたい。</li> </ul>
----------------	--